

2019.6.29-30

THILAND

Round

04

final



ズバリと当たったチーム戦略だったが セーフティカーによって上位を逃す



60kgものウェイトハンデ、想定していたよりも低い気温&路面温度。AUTOBACS SUPER GT 第4戦タイは、K-tunes Racingにとって、苦しい戦いでした。

前日の予選、Q2進出したものの、15位という結果となり、チームはチャレンジングな戦略を採用しました。スタートドライバーの阪口晴南選手を長く走らせ、軽くなったマシンでタイムを稼ぎながらタイヤを温存し、またドライバーチェンジではタイヤ無交換としてロスタイムを削る、というもの。タイヤ無交換は、重量級のLEXUS RC F GT3では採りにくい作戦ですが、今回はブリヂストンタイヤの性能やコースコンディションなどから、実行可能であるという判断でした。

例年よりも涼しい天候だったチャン・インターナショナル・サーキットでしたが、決勝レースが始まる頃には日差しも強くなっていました。スタートドライバーの阪口晴南選手は、ロング&タイヤ無交換ということで走り始めのマシンの状況が苦しく、ポジションを2つ落として17位に。しかし20周を過ぎ、ガソリンも減り始めると、自己ベストを更新しな





から追撃を開始。と、ドライバーチェンジのピットインをするマシンが出始め、コース上での順位は27周目に9位、31周目に7位、そして35周目には3位にまで順位を上げることに成功します。

しかし、そのタイミングで多重クラッシュが発生し、セーフティカーが導入されてしまいます。ロスタイムを最小限にし、広げたリードを生かして上位に食い込む戦略だったのですが、セーフティカーによってリードは消滅。K-tunes Racingにとっては最悪のタイミングだったのです。



再スタートした40周目、新田守男選手へとドライバーチェンジし、タイヤ無交換でロスタイムはわずか56秒に抑えました。しかしコースに戻ると15位。レース終盤、上位のマシンがトラブルで後退し、最終的には14位という結果に。タイヤ無交換でも、レースペースは悪くなかっただけに、残念な結果となりました。

次戦、シリーズ第5戦は8月3日～4日富士スピードウェイでの500マイルレースです。約800kmの真夏のロングレース、K-tunes Racingの戦いに期待してください。

2019 AUTOBACS SUPER GT Round 4 Chang SUPER GT RACE
 チャン・インターナショナル・サーキット
 2019年6月30日 天候：晴れ 路面：Dry
final

Po	No	Machine	Driver	Laps	Best Lap	Diff.(sec.)	Tire	WH
1	10	GAINER TANAX triple a GT-R NISSAN GT-R NISMO GT3 / VR38DETT	星野 一樹 石川 京待	62	1'33.187	1:44'28.062	YH	2
2	56	リアライズ日産自動車大学校 GT-R NISSAN GT-R NISMO GT3 / VR38DETT	平峰 一貴 サツシャ・フェネストラズ	62	1'33.429	0.796	YH	24
3	65	LEON PYRAMID AMG Mercedes AMG GT3 / M159	黒沢 治樹 蒲生 尚弥	62	1'33.390	21.206	BS	17
4	25	HOPPY 86 MC TOYOTA 86MC / GTA V8	松井 孝允 佐藤 公哉	62	1'34.364	35.973	YH	14
14	96	K-tunes RC F GT3 LEXUS RC F GT3 / 2UR-GSE	新田 守男 阪口 晴南	61	1'34.884	1 Lap	BS	60

ファステストラップ：1'33.187 No.10 GAINER TANAX triple a GT-R / 石川 京待

監督・選手コメント



Team Director
影山正彦

10位以内を狙ったんですがセーフティカーのタイミングが悪すぎました。優勝した直後のレースでしたけど、みんな緊張感を持って一丸となって戦えました。それが次のレースにつながると思います。



Driver
新田守男

結果につながらなかったけど、チーム初のタイヤ無交換で、BSのパフォーマンスが良くて、こんなに走れるというのは新しい発見でした。今後のレースのために有効なデータが作れたと思います。

